

平成 30 年 6 月 11 日現在

機関番号：84604

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26870928

研究課題名(和文)古代における食生活の復元に関する環境考古学的研究

研究課題名(英文)Environmental archaeological study about food habits in Ancient Japan

研究代表者

山崎 健(Yamazaki, Takeshi)

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・埋蔵文化財センター・主任研究員

研究者番号：50510814

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：遺跡出土の食料残滓から、古墳時代～古代における動物食の実態を検討した。古代都城の研究では、藤原宮跡や平城宮跡から出土した動物遺存体の分析をおこない、都市部への海産物の流通形態を考察した。地方の研究では、文字資料に残りにくい食生活の実態を明らかにするとともに、令制以前における海産物の貢納やその歴史的変遷を論じた。また、考古資料と文字資料を比較することにより、食品に対する大きな価値の差異が認められ、「中央へ貢進するための食料獲得活動」と「地元で流通・消費するための食料獲得活動」を分けて議論できることを提示した。

研究成果の概要(英文)：Using food remains recovered from excavations at archeological sites, this study examines the situation of animal-based foods from the Kofun period to the Heian period. Through researching the ancient capital cities of Japan, animal remains excavated from sites such as the Fujiwara Palace and Heijo Palace are analyzed, and the distribution of seafood into urban areas is investigated. In regional studies, the situation in terms of diet and cuisine is clarified. Tribute payments of seafood before the development of the ritsuryo system are elucidated, and their historical transitions discussed. Additionally, a comparison of archaeological and documentary materials reveals major discrepancies in the values of foodstuffs, indicating that it is possible to draw a distinction between “activities involving the acquisition of food for paying tribute to the central government” and “activities involving the acquisition of food for local distribution and consumption.”

研究分野：動物考古学

キーワード：古代 動物 食

1. 研究開始当初の背景

天皇が統治する国を「食す国 (おすくに)」と記すように、古代では食することが統治することを意味していた。政権は列島各地の特産物を掌握し、天皇のもとには貢納物として様々な産物が集められた。そのため、食生活の実態を明らかにすることは、古代史において非常に重要な意義をもつ。

古代の食生活に関する研究は盛んにおこなわれきたが、関根真隆氏の『奈良朝食生活の研究』(1969年)に代表されるように、文献や木簡などの文字資料による研究が中心であった。

2. 研究の目的

近年の発掘調査の成果により、文字資料として残りにくい食生活の実態が明らかになりつつある。

そこで本研究は、遺跡から出土する食料残滓から古代における食生活の実態を解明することを目的として、食生活に関わる基礎資料を収集するとともに、遺跡出土資料の分析をすすめる。そして、「遺跡出土資料による研究成果」と「文字資料による研究成果」と比較検討することによって、古代の食生活を多角的に考察する。

3. 研究の方法

古代の遺跡から出土し食料残滓を分析して、食生活を復元する。過去の発掘調査における未報告資料についても積極的に分析をおこなった。また、全国の各地方自治体から刊行されている発掘調査報告書を活用して、古代の遺跡から出土した食糧残滓を集成した。

4. 研究成果

(1) 藤原宮跡や平城宮跡から出土した動物遺存体を再検討して、藤原宮跡ではアカニシ、平城宮跡ではウニ綱やサザエ、クボガイ、コシダカガンガラ、スガイを確認した。



図1. 平城宮跡から出土した動物遺存体

ウニは殻付きの状態、海産貝類も貝殻ごと都城へ運ばれることがあったことを明らかにした

にした点は、食生活の実態だけでなく、古代における海産物の流通を考える上でも大きな意義をもつ。

(2) 御食国である若狭国の浜禰遺跡を対象として、律令制以前における海産物の貢進形態やその歴史の変遷を検討した。その結果、以下の点が明らかとなった。

①古墳時代～古代にかけて、浜禰遺跡における製塩活動と採貝活動の動向は相関しており、土器製塩が拡散して盛期を迎えるにつれて、採貝活動は低調化していった。採貝活動に費やしていた労働投下量を製塩活動に集中させた結果と考えられ、浜禰遺跡が製塩活動へ特化する様相がうかがえた。

②古墳時代中期後葉～後期前半になると、「自家消費的な採貝活動」から「供給のための採貝活動」に変化していた。選択的に採集された貝種は、木簡や延喜式に記載された品目と一致しており、令制以前から共通していたものと考えられる。

表1. 魚貝類の比較

資料	貝類	魚類
浜禰遺跡の動物遺存体 (5世紀後葉～6世紀前半)	サザエ、イガイ、アワビの3種に集中	マダイが多く出土
若狭国の河札木簡 (7世紀後半～8世紀前半)	貽貝(イガイ)、鮫(アワビ)、海蛸類・細蛸(シタダミ?、サザエ?)	鯛・多比・田比(タイ)、加麻須(カマス)、伊和志(イワシ)、須々(スズキ?)
『延喜式』主計上	鮫(アワビ)、貽貝(イガイ)、甲斐(ウニ)	鯛(タイ)

(3) 木簡や延喜式に記載される貝類の生息環境を検討すると、アワビを中心として外海岩礁性群集が卓越していた。貝類の資源環境を考慮すると、畿内周辺で多量のアワビを獲得できた地域は若狭や志摩といった「御食国」と考えられる地域が該当する。こうした岩礁域 (いわゆる「磯」) では、マダイなどの磯魚、ウニ類、海藻類も獲得することができる。

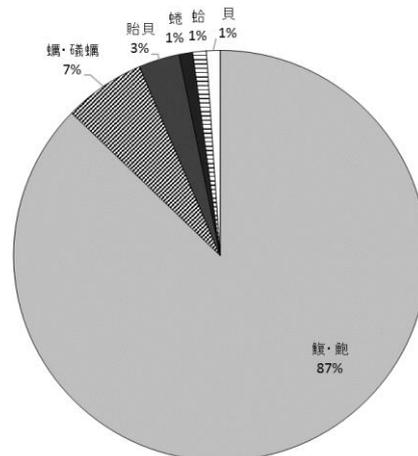


図2. 貢進された貝類組成 (木簡)

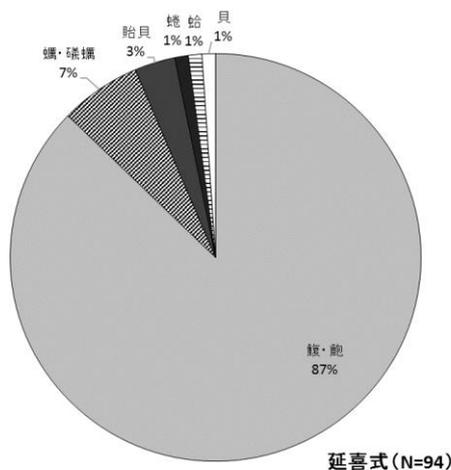


図3. 貢進された貝類組成 (延喜式)

一方で、ハマグリやマガキ、シジミ類といった資源量の多い貝類 (大量に採取できる貝類) は、畿内周辺で獲得可能にも関わらず、木簡や延喜式にはほとんど見られなかった。すなわち、考古資料と文字資料を比較すると、古代には貝類に対する大きな価値の差異が認められ、「中央へ貢進するための採貝活動」と「地元で流通・消費するための採貝活動」を分けて議論できることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

①山崎 健、馬の貢進・貝の貢進、条里制・古代都市研究、査読無、33号、2018年、1-16

②山崎 健、馬の生産と消費—金井下新田遺跡と藤原宮跡から出土した馬の比較—、群馬県立歴史博物館グランドオープン記念第93回企画展『海を渡って来た馬文化—黒井峯遺跡と群れる馬—』企画展示図録、査読無、2017年、176-182

③山崎 健、ニホンジカの骨端癒合時期、動物考古学、査読有、33号、2016年、35-48

④山崎 健・覚張 隆史、藤原宮造営を担った駄馬の利用実態、古代文化、査読無、68巻3号、2016年、140-141

⑤山崎 健、藤原宮跡から出土した動物遺存体、奈良文化財研究所研究報告、査読無、17、2016年、1-26

⑥山崎 健、平城宮東方官衙地区 SK19189 出土の動物遺存体、奈良文化財研究所紀要、査読無、2015、2015年、157-158

⑦山崎 健、若狭の漁撈と製塩—浜禰遺跡に

おける酒詰報告 (1966) の再検討—、美浜町歴史シンポジウム記録集、査読無、9、2015年、95-106

[学会発表] (計9件)

①山崎 健、藤原宮・平城宮における動物利用、若手研究者セミナー『ユーラシア世界における動植物利用の拡散—生物考古学最前線—』、2017年11月10日、奈良文化財研究所 (奈良県)

②山崎 健、古代都市部における動物利用—都市で利用された動物と人の関わり合いについて—、金沢大学公開講座『動物骨は語る—縄文から近世までの人々と動物たち—』、2017年10月28日、金沢大学サテライト・プラザ (石川県)

③山崎 健、古代における貝類利用の実態—房総地域の事例研究—、第288回近江貝塚研究会、2017年10月21日、滋賀県埋蔵文化財センター (滋賀県)

④山崎 健、馬の貢進・貝の貢進、条里制・古代都市研究会第33回大会、2017年3月4日、平城宮跡資料館 (奈良県)

⑤山崎 健、動物遺存体からみた古代の食、第273回近江貝塚研究会、2016年8月27日、滋賀県埋蔵文化財センター (滋賀県)

⑥山崎 健・覚張 隆史・降幡 順子・石橋 茂登・米田 穰、藤原宮跡から出土した馬の飼育形態と産地推定、日本動物考古学会第4回大会、2016年6月18日、鳥取市青山町総合支所 (鳥取県)

⑦山崎 健、動物遺体から見た文化誌、生き物文化誌学会第13回学術大会、2015年6月27日、中央大学 (東京都)

⑧山崎 健、都城における多様な動物利用、みはま土曜歴史講座、2014年8月3日、美浜町生涯学習センターなびあす (福井県)

⑨山崎 健、動物骨からみた古代食、古代食復元研究会、2014年5月16日、東京医療保健大学 (東京都)

[図書] (計1件)

①山崎 健、朝日新聞出版、飛鳥むかしむかし国づくり編、2016年、143-146

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山崎 健 (YAMAZAKI, Takeshi)
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財
研究所・埋蔵文化財センター・主任研究員
研究者番号：50510814

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()